

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

朝来市長 藤岡 勇

市町村名 (市町村コード)	朝来市 ( 282251 )	
地域名 (地域内農業集落名)	朝来市和田山町大蔵地区 ( 寺谷区 )	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年3月6日 (第7回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

### (1) 地域農業の現状及び課題

地域内農業者の高齢化が進み農業意欲の減退等により、認定農業者への農地集約が進んでおり、年々その傾向が強くなってきている。

現在、認定農業者への集約は、25枚の水田(約4.8ha)であり、一部移住してきた若手農業者の就農もあるが、今後の規模拡大を目指すため、地域内農業者の支援、協力が重要となってくる。

### (2) 地域における農業の将来の在り方

現在の主要作物は水稻となっており、年間通水の利点を活かし、今後はコウノトリを育む農法等減農薬及び有機栽培に向けた取り組みを推進する必要がある。また、一部でビニールハウス栽培が行われているが、これらについても減農薬及び有機栽培に順次進めていくとともに若手農業者への経営移譲も視野に考慮しなければならない課題である。

## 2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

### (1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	15.02 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	12.74 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

### (2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

地区内にある農用地を区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
担い手を中心に集積、集約化を進め、団地面積を拡大する。
(2)農地中間管理機構の活用方針
担い手の経営意向を踏まえ、所有者の貸付意向と調整しながら進め、農地中間管理機構を極力活用する方向で進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
昭和47年に県営ほ場整備で区画を整理したが、当面ほ場整備は実施しない方向とする。 水路については、区、区農会との協議を行い、適正な時期に実施できるよう検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
地区内外から経営体を募り、担い手として育成していくため、区農会、市役所と連携を密にしながら取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農薬散布等の防除作業は、担い手農家に委託、水稻の乾燥調整作業はJAに委託する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

①獣害防止柵を設置しているが、倒木、雪害等により破損する箇所もあり、随時見廻りを実施し、手直しを行うなど補修に努め被害の防止を図る。また、高圧線の鉄塔にカラスが巣を作り毎年数が増えているため、近年は関西電力に依頼し、撤去してもらっている。今後も継続していく。  
②市内堆肥センターの牛糞堆肥を今後も積極的に活用するとともに、コウノトリ育む農法にも少しずつ取り組むよう啓蒙していく。